

# 金岡新聞

6月号

## 日本ロマン飛行 ③④

### 〈豊稔池〉香川

阿讃山脈を分け入る杵田川上流に「豊稔池堰堤」はある。長い年月の風雨にさらされた堰堤は、まるで中世ヨーロッパの古城を思わせる偉容と風格があり、水を湛えた水面と周囲の山並みとの調和で四季折々に見事な景観を見せてくれる。

堤長145.5m、堤高30.4mのコンクリート造溜池堰堤で、両端部を重力式、中央部が5個のアーチと6個の扶壁(バットレス)からなるマルチプルアーチ式で、その先駆的かつ希少な構造形式は農業土木史上価値が高く、また、昭和前期における堰堤建設の技術的達成度を示しており、平成18年12月19日に重要文化財(建造物)に指定された。大正15年に起工、昭和4年11月の竣工後、80年近く経過した今でも約500haの農地の水がめとして活躍している。建設に際してはすべて地

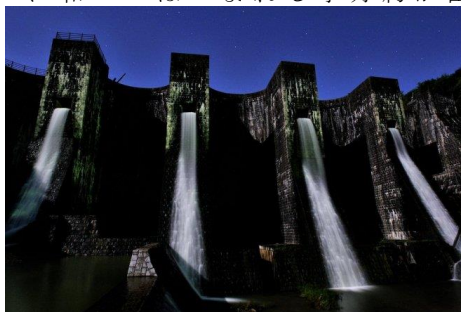


満濃池のゆるぬきは、毎年6/15と決まっているが、豊稔池のゆるぬきは、7月下旬から8月上旬頃と不定期で、一週間ほど前に日程が告知される

#### 6月生まれの有名人

- 6/1 夏川 結衣 48歳
- 6/5 ガッツ石松 67歳
- 6/10 いたうあさこ 46歳
- 6/11 沢口 靖子 51歳
- 6/12 釈由美子 38歳
- 6/13 森口博子 48歳
- 6/17 ショーコ 58歳
- 6/19 宮里 藍 31歳
- 6/21 長谷川初範 61歳
- 6/24 野々村真 52歳
- 6/29 野村克也 81歳
- 6/29 井川 遥 40歳

大蔵大臣が現地視察をした際に「豊稔池」と命名された。平成6年に大規模な改修工事や周辺整備が終了。一年を通じて多くの観光客がここを訪れている。特に、夏(不定期)に行われる「ゆるぬき(放流)」の風景は季節の風物詩として知られている。



日本で唯一の、石積式5連のマルチプルアーチダム

#### 山佐産業(株) 瀬戸内プレカット 金岡事業所

岡山市東区金岡東町3-5-70

TEL 086-948-2053

FAX 086-948-0108

#### フランスではウィーナスの髪とも

#### 「ニゲラ(クロタネソウ)」

ニゲラとは、クロタネソウ属に分類される一年草の総称。江戸時代末期に日本に渡来し、ガーデンニングやアレンジメント、ドライフラワーに利用されている。草丈は30〜100cmほどで、太い茎から糸のように細い葉っぱをたくさん生やして生長する。その茎の先に、中心が盛り上がり、周りに5枚の花びらを付けた3〜5cmほどの花を咲かせる。花びらのように見えるのは葉っぱが変化した萼で、実際の花びらは退化して目立たなくなっている。

細いワイヤーのような葉の中に花を付ける姿が幻想的なニゲラ。学名の「Nigella」は、ラテン語の「Niger(黒)」が語源で、種が黒いことにちなんで付けられた。和名の「クロタネソウ」も、種の黒さが由来。英語の「Love in a mist(霧の中の恋)」は、糸状の葉っぱが霧のように花を包む姿から。「Devil in a bush(茂みの中の悪魔)」は、果実の先端に角のような突起があることにちなんで名付けられた。

ニゲラの品種の一つ、ニゲラ・サテイバは、薬草として有名なハーブ。ニゲラ・サテイバの種は、ブラックシードと呼ばれる、古代エジプトのツタンカーメン王の埋葬室からも発見されるほど古くから食用や薬用として栽培されてきた。乾燥させたものを砕くと、オレガノやクミンに似た強い香りを放ち、ほのかな辛みが特徴。この種には、母乳の分泌を促進する効果があるとされ、また、鎮痛作用や抗菌、食欲増進、消化促進などにうれしい効果がたくさん。ただ、ニゲラ・サテイバ以外の品種の種には毒が含まれており、摂取すると中毒症状を起こす恐れがあるので注意が必要。

#### ✪編集後記✪

今回特集した花は、あまり聞きなれない花だったかもしれません。『ニゲラって怪獣の名前かよ!?』と、突っ込みたくもなりました。実は、我が家で毎年花を咲かせ、そのたびに勢力を増しており、なんとという花なのだろうと気になり、今回調べてみた次第です。おそらくは、お隣さんの花壇から、こぼれ種が飛んできたのだと思います。花が咲く前は「一見コスモスかな?」と思うほど華奢です。ゴールデンウィーク明け頃から、きれいな澄んだ水色の八重の花がどんどんと花開いていき、初夏の我が家の庭を、彩ってくれます。他にも(植えていないのに)色々な花が、咲いてくれているので、また、ネタが尽きたら記事にしていこうと思います。



毎回、楽しみにしてくださっている読者様のおかげで金岡新聞は続けられています。今回も最後までお読みいただき、ありがとうございました。これからも金岡事業所共々、宜しく願い致します。